

安芸市福祉事務所
所長 長野 信之 様

安芸市立伊尾木保育所
所長 乾 真理



令和5年度 伊尾木保育所園評価報告書

1 保育所における自己評価の記録

月	自己評価	月	自己評価
4月	○園経営計画の作成 ○本年度の重点目標の設定（園評価） ○園評価の項目・指標の設定 ○職員への園経営計画・園評価の説明と理解 ○保護者へ説明	11月～12月	○保護者へのアンケートの実施
8月	○中間評価の実施 （職員の自己評価・園の自己評価）	1月	○アンケートの集計・分析 ○最終評価の実施
9月	○設定者への中間評価報告・改善策の検討	2月	○保護者へ園評価結果の報告 ○設置者への報告・改善策の検討

2 評価結果

○総括的な自己評価結果について

<成果>

① 保育・教育活動の充実

- ・遊びや生活を通して子ども達が主体的に学んでいけるよう、子どもの好きな遊びに合わせて保育活動を行なってきた。子どもの育ちや友達との関わりを見極めながら遊びの提案や環境構成を行う事で、友達と一緒に工夫していくことの楽しさやおもしろさを感じる姿が見られるようになった。
- ・週日案・月案等でこどもの育ちや保育内容を様々な視点で振り返る為の記録をしっかりとってきた。

② 職員の育成・資質向上や運営

- ・職員一人一人の意見を尊重し、取り組みを計画しつつそれぞれの役割を明らかにし、責任を持って任務を遂行してきた。
- ・研修で学んだことを参考にしながら共通課題に向かい、職員同士が協力し合って実践していくことで改善面もみられるようになった。

③ 地域に開かれた園づくり

- ・日頃から保護者と子どもを中心とした話をし、お便りや帳面で子どもの成長や保育内容を発信できた。すぐるを利用し保育の情報を知りやすく発信をすることで保護者にも理解してもらえるようになった。
- ・積極的に小学校や地域の人達との交流を持ち、公民館行事では（地区民運動会・芸能祭・文化祭）にも参加し、地域との交流を深めることができた。

小学校教諭の保育所訪問時に意見交流の時間を持ち、地域の子育て、教育の課題を明らかにする。

<課題・改善策>

① 保育・教育活動の充実

- ・子ども達が主体的に学べる遊びや生活を作ってきたが、育ちの部分では不十分な所もあるので、今後も、子どもそれぞれの発達過程を踏まえながらどのような遊びが子ども達にあっていのか考え実践していく。

② 職員の育成・資質向上や運営

- ・保育の振り返りは出来ているが、課題を明らかにし実践していくことが難しい部分が少しある。
まずは自分の実践を振り返りながら、みんなで話合いたいこと共有したいことをあげ、課題だと思ったことを意識し、できることから取り組んで行く。
- ・子どもたちの健康、安全に留意しながら成長発達に寄り添った保育を心がけていく。

③ 地域に開かれた園づくり

- ・保護者に保育内容や子どもの育ちに興味をもってもらうことが少しできぬかった。引き続き保護者に丁寧に子どもの話をしていくことで、保護者がわが子の育ちや興味を感じる事ができるよう、ともに考え、子どもの育ちを支えるとともに保護者も支えていく。
- ・小学校との交流において、よりよい連携ができるようにねらいを明確にした交流をしていく。

園評価

(伊尾木保育所)

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察
			取組指標	結果	成果指標	結果	
☆ 保育・教育活動の充実	一人ひとりが自分らしさを発揮して夢中になって遊べるための環境作り	【環境構成】 子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う	4 毎のクラスの活動や保育の中で大切にしていることを知り保育の環境構成の設定や調整をする 3 季節やその時期に大切にしたいことなどを踏まえ、環境を整える 2 子どもの活動や活動の状況に応じて環境の再構成をする 1 一日の活動に必要な遊具・用具、教材の準備をする	3.5	4 自分達が始めた遊びを発展させていく子ども 75%以上 3 65%以上 2 50%以上 1 50%未満	3.3	・子どもの育ちや、友達との関わりを見極めながら遊びの提案や環境構成を行うことで、友達と一緒に工夫していくことの楽しさを感じる姿が見られるようになった。また、子ども達が興味・関心のあることを遊びの中に取り入れるようになってきたことで主体的に遊びを展開していく姿が見られた。今後も遊びや生活を通して子どもが主体的に学んでいけるよう、子どもの好きな遊びに合わせて保育活動をおこなっていく。
		【指導計画】 保育の記録と振り返り	4 記録をもとに職員会などで報告・情報提供し保育に生かす 3 気が付いたことを各自が記録する 2 記録の取り方を工夫する 1 振り返りや記録をとる時間を確保する	3	4 記録と振り返りができ、保育に生かした 90%以上 3 75%以上 2 50%以上 1 50%未満	3.6	・週日案、月案等子どもの育ちや保育を様々な視点で振り返る。その為にも丁寧な記録をとっていくことを心がけた。 ・クラスの指導計画を基準にどのくらい取り組んでいるかやねらいに沿って特徴的な事柄を分かりやすく記載する。
◆ 職員の育成・資質向上や運営	共通課題に向かう職員の協力体制づくり	【組織運営】 園務分掌を整理し責任区分を明確にして、保育内容を企画・立案する	4 担当分掌を責任を持って遂行するとともに、新たなアイデアや改善を提言する 3 担当分掌を責任持って企画立案する 2 担当した業務について振り返り改善し、職員会で報告する 1 担当した業務を遂行する	3	4 担当分掌を責任を持って遂行するとともに、新たなアイデアの提言ができた 3 担当分掌を責任持って企画立案できた 2 担当した業務について振り返り改善し、職員会等で報告できた 1 自分の役割を自覚できるようになった	3.7	・職員一人一人の意見を尊重し、取り組みを計画しそれぞれの役割を明らかにして、責任を持って任務を遂行することで、目標を共有しながらひとつのチームとして保育にあたることができた。 ・給食担当は、日々園々の子どもの様子を職員から聞きながら、量や切り方を調整し、子どもの食べる意欲につながった。
		【研修】 共通理解を持ち保育を充実させていく	4 職員会の中で研修内容を共有し課題を出し合い、全職員が協力して課題に取り組み保育内容を向上させていく 3 定期的な職員会の他、必要に応じて職員会を行い課題を出し合う 2 月1回職員会を行う 1 回覧や口頭で伝達する	3.3	4 研修内容を話し合い協力して保育の実施・向上することが出来た 3 職員会を開き職員同士課題を共有する 2 職員同士話し合いを行うことができた 1 研修内容や課題を理解する	3.5	・研修で学んだことを参考にしながら共通課題に向かった。職員同士が協力しあい、実践していくことで改善面もみられる。 ・研修で学習することは、自分の保育の振り返り課題を見つける機会となっており、日々の実践につながった。
◎ 地域に開かれた園づくり	保護者や地域とともに歩む保育活動の充実・連携強化	【情報提供】 園に関する様々な情報を発信する	4 保護者にアンケートを出し、振り返りを行い改善する 3 子どもの様子や子育てについて、連携・共有できる機会を設ける 2 保育の情報を分かりやすく発信する(園だより・クラス便り) 1 登降所時に子どもを中心とした話をする	3	4 アンケートや意見を求め、保育の改善ができた 75%以上 3 50%以上 2 35%以上 1 35%未満	3	・アンケート結果を受け、保育の振り返りを行い課題を明らかにする。改善すべき点については改善策を考えより良い保育を目指して取り組んでいく。 ・日頃から保護者と子どもを中心とした話をし、お便りや帳面で子どもの成長や保育内容を発信してきた。そうしたことから保護者も育児を楽しみることができ成長を感じられると喜んでくれている。 ・すぐるを利用し保育の情報を分かりやすく発信することで保護者に理解をしてもらえるようになった。
		【小学校との連携】 計画的に連携し、相互理解する	4 保小連絡会や体験学習等を通して情報交換する 3 職員間で交流し情報交換する 2 研修を通して理解する 1 行事を通して交流する	3.6	4 課題を共有しスムーズな接続につなげることができた 3 園の課題や子どもの育ちを振り返り発達を見通した保育の実践につなげた 2 接続に関連した学習を通して理解につなげた 1 年長児が小学校を身近に感じる事ができた	3	・小学校教員の保育所訪問時に意見交換の時間を持ち、地域の子育て、教育の課題を明らかにしてきた。 ・小学校とのお便りを使って情報交換をし、子どもたちの活動や学びの共有をしているが、職員間の交流が少なく思う。今後は交流する機会を増やし意見交換をしていく。